

# 希望の街・下関 将来のわがまちデザイン



～ 新たな力でまちが輝く～



2018年の市民と市長の新春座談会。  
今年のテーマは「希望の街・下関 将来の  
わがまちデザイン～新たな力でまちが輝  
く～」です。

今回は地域で活躍される方々6人が、  
「創業支援カフェ KARASTA.(カラスト)」  
に集い、「希望の街・下関」の将来デザイ  
ン・姿について、それぞれの思いを前田  
市長と語り合いました。



下関市長 前田 晋太郎



唐戸商店会理事長  
吉田 悟さん



下関21世紀協会副理事長  
中野 秀行さん



下関市商工会青年部豊北支部  
中嶋 吉幸さん

# 2018 新春座談会



「創業支援カフェ KARASTA. (カラスト)」(赤間町1-10)  
 唐戸から、みんなではじめる(START)・みんなであつまる(STATION)・  
 みんなでつくる(STUDIO)、それがカラストです。みんなが集まり、  
 創造し、発信する「創業支援カフェ KARASTA.」。あなたのはじめたい、  
 あつめたい、つくりたいを支援します。



創業支援カフェ KARASTA. 代表  
北尾 洋二さん



下関市商工会青年部豊田町支部長  
増田 勝公さん



菊川子ども園育成会 前会長  
平山 歩さん

# 明けまして おめでたいなごま

## 前田市長

市長に就任して10カ月が経とうとしていきます。あっという間でしたね。やっぱり感じたのは、人口がすごく減っている。人口が減ってくるというんなものに悪い影響が出てきています。もう一つ、市民、特に、若い人たちが、自分の「まち」に自信を持ってなくなっているところが一番の問題だなと感じました。良いところはいっぱいあるんですよね。海や山、温泉などの自然。食材も豊富でおいしい物もたくさんあります。

これから、私としては皆さんが思い浮かぶ下関の素材を磨いていきたいんです。今あるものを磨いていって、どれだけ下関らしさを出していけるか、市民に自信を持ってもらえる政策ができるか、教育に関しても、子どもたちにどれだけ伝えていけるか、10年、20年、50年のイメージで取り組みたいと考えています。

今日は、皆さんの自分のまちに對する思いや、このままじゃいけないという気持ち伺います。それから、下関の将来のことや、こういうことが出来たらいいなど提案型の話をお願いします。



## わが地域の魅力・ 素材って何だろう

### 中野(豊浦)

平成21年から3年間、市商工会青年部長、豊浦町の支部長をしていました。市町が合併して、当時はまだ一体感がなかったのですが、まずは連携しようということで、それぞれの町の祭りの応援に行き、各町の良さをお互いに行きながら始めました。旧市内の青年団体とも一緒になって連携事業を進め、「ツールドしものせき」や、関門海峡花火大会など、多くの事業で連携できたことは下関市にとってもいいことだと実感しています。

それと、豊浦町は湯のまち、川棚温泉。温泉が魅力ですね。

### 増田(豊田)

豊田町といえば、ホタル祭りや、ホタル舟。「ホタルのまち」というのが、皆さんにも一番ピンと来るでしょうね。その他、ナシ、米。



米も「西都の雫」という酒米が大大的に作られていて、豊田の米でうまい酒が造られています。

ジビエ狩猟で得た野生鳥獣の食肉も下関で加工場ができています。豊田町。豊田湖という大きな湖もあり、冬にはワカサギも釣れます。秋には、紅葉が見れる場所もあります。フルーツもナシ以外に、リンゴ農園、ブドウ農園、イチゴ農園もあり、すべて観光農園もしています。

### 中嶋(豊北)

4年ぐらい前に、前の職場を退職して実家のうに屋の後継ぎとして帰ってきました。私も商工会青年部豊北支部に所属し、豊北夏まつりを主な活動としています。



豊北夏まつりは、迫力ある花火が売りで、毎年お客さんが増えてきています。また、関門海峡花火大会や馬関まつりにも参加し、うに飯や豊北イカのイカ焼きなど地元の食材をアピールしています。

個人的には、下関市の「FCバレイン下関」というサッカーチームを応援しています。地元でプロを目指すチームがあるって、すごく魅力的ですね。

### 平山(菊川)

私は、菊川で生まれ、育ちました。岡枝小学校、菊川中学校、田部高校に通い、高校を卒業後は、地元の宿泊施設のサングリーン菊川で7年間フロントの仕事をしていました。結婚と出産を機に退職し、4人の子どもの子育てをしています。現在、子育て真っ最中です。

子育てしている視点で言うと、菊川町は、自然がいっぱいで、緑も多く、本当に子育てしやすい環境なんだと実感しています。実際、私の周りにも3人、4人と出



角島大橋と海士ヶ瀬戸(嶋島)



蛍籠プロジェクト



関門海峡キャンドルナイト



サングリーン菊川



産されている方が多くて、地元の小学校では、特に4人兄弟が多いんですよ。それと、道の駅もありますし、サングリーン菊川や温水プールもあります。

**吉田(本庁)**

私は、唐戸地区で生まれ育ちました。祖父が商売を始めて、私が3代目になります。20年前に下関に戻って来て家業を継ぎました。私の会社は、どちらかというと外に目を向けていて、数年前から香港に出て商いを始めています。また、4年前から唐戸商店会の理事長をしています。4年務めてきた中で、今日、同席の北尾さんに協力してもらって、昨年11月に「関門海峡キャンドルナイト2017」を開催しましたが、つながっていくということが、振興や盛り上がりが増えていくことなんだろうなって感じました。昔ほどのにぎわいは作れてないですし、店もシャッターが多い。でも、その残った商店が繋がってコミュニティ

化(共同化)していくということが、今の時代に合った商店会の在り方で、魅力の一つになっていけばいいですね。

**北尾(本庁)**

カラスタへようこそ。私は昔から転勤族でして、子どもの頃は、小学校だけで4回変わっているんですが、やっぱり原点は下関なんです。子どもの頃、馬関まつりで迷子になったことを今でも鮮明に憶えています。唐戸にはもうめちやくちゃんがいる、あふれんばかりの人っていう原体験があったので、大学卒業して下関に戻ってこの状態を見た時、この差はなんだ、なぜこうなったんだろうって思いましたね。結果的には、唐戸でカラスタの仕事をしているので、これは使命なのかなと思います。カラスタは、創業支援カフェですが、堅い言葉で言うところ、下関市からの委託事業で創業支援型地域活性化事業が正式な名前なんです。でも、現状は逆とされていて、地

域活性化型創業支援事業、地域を盛り上げることによってネタを掘り起こして、なにか創業できる、創業していくことじゃないかと思っています。

ある意味、カラスタが下関の魅力を引き出し、発信する基地になればいいですね。

それと、下関には東亜、梅光学院、下関短期、市立大学や、水産大学校に大学生が結構いますよね。若い学生がたくさんいるっていうのも魅力の一つでしょうね。

**将来のデザイン・姿  
希望の街・下関**

**前田市長**

皆さんに、魅力や素材などいろいろと持っていることを伺いましたが、これからは、下関がこうなるといいよねっていうような、将来のデザイン・姿や、希望の街・下関に向けて、どこをどう磨いていったらいいかをお願いします。

**中嶋(豊北)**

ウニの漁獲量っていうのは、私の子どもの頃に比べてものすごく減っています。環境の変化でウニの生息数が減っているのですが、ウニを採る人自体も減少しているのが現状です。そこで今、水産大でウニの養殖や研究を試験的にやってもらっていますが、時間もお金も掛かるといった問題があります。地元の漁師は若くて60代70代以上が中心で、漁師の高齢化もかなり進んでいて大変です。他県で漁師希望者を募っても、来てくれる方は1人か2人です。他業種が繋がって、お互い協力し合っていて、私たちは作る方に専念して、発信や販売を任せられることができればいいと思っています。それと、他県の人から見ると下関って夜過ごす場所がないって思われていて、小倉や博多に宿泊する方が多いようです。もったいない。滞在型観光にも、もっと目が向けられればいいですね。



豊浦コスモスまつり



角島灯台とスイセン

## 吉田(本庁)

企業経営の面からお話しします。私が、非常に大切にしている三つの柱があって、一つは「未来」、もう一つは「今」、三つ目が「教育」です。未来を見せる。そのためには今を改善しないといけないし、今を改善するために教育が必要です。これは、企業経営にも子育てにも、もしかしたら、まちおこしにも言えるのかなと思います。

それと、流動化。下関の中小企業が人材とかお金も含めて、流動化していくといいですね。そういう未来が私の中でワクワクする未来なんです。

全く違う業種でもどこかでつながっていると思っています。同じ課題に向けて一緒に行動を起こす企業、まちの問題って、なかなか自分たちだけでは解決できないことが多いと思うんです。子育てもそうです。人事交流なんかも、もっと簡単にできるようにしなければいけません。企業同士がうまく溶け合っただけでいい。得意なところだけを磨いていって、不得意なところは得意なところに任せていく。中小企業同士が問題をもち合って解決し合えるように、人材も金も流動化していって下関って中小企業が元気なまちだよなってなればいい。これに行政も特区や、税制などで優遇する措置があるともっといいですね。そう

れば全国から中小企業や企業家が集まってくるんじゃないかと考えています。

行政と民間がタッグを組んで、一つの枠組みを作ってしまえばいいなと思います。

## 増田(豊田)

豊田町は、下関市の中でも特産にしているようなものに恵まれた地域だと思います。豊田町がまちごと全部工場みたいな感じのイメージで、下関の特産品生産豊田工場みたいな感じになればどうかと思います。先ほどから話に出ているように、発信は他の地域、それぞれが良いところを生かして、役割分担、分業するのも本当にいいですよ。

それと、これからは、高級なものとしてのブランド化と田舎でも仕事ができる環境づくりも必要だと考えています。ブランド化で仕事ができれば、担い手となる人材も増えてくると思う。都会でなくても仕事に集中できる環境があれば、自然豊かな環境が好きで、そこで仕事したい人が集まってくると思っています。

## 中野(豊浦)

テーマの希望の街を考えてみて、今年には明治維新150年の年にも当たりますので、下関の文化、歴史について何かできないかと考えてい

ます。豊浦町には鳥山民俗資料館（かきやま）があって、私の全然知らない川棚のことが展示されていて面白いんです。そこで、川棚のまちを知ってもらおうような発信をしていきたいですね。皆さんの話を聞いて、違う地区の方が川棚を知って、川棚の事を考えてもらうのも一つの手なのかなって思いました。いろんな角度から見ることが必要だと考えさせられました。

## 平山(菊川)

私は子どものことを中心に、お話しします。

菊川町も共働きの家庭が多くて、共働きだと子どもたちだけ居ることが結構あるんです。近所のおじいちゃん、おばあちゃんと普段から交流できる場所が、町内にあればいいですね。退職された方で、見てくれる方が常に居てくれると助かります。

それと、今、運動能力が低下している子どもたちが多いと聞きます。やっぱり小さい頃から伸び伸びと体を動かして運動能力を付けてほしいです。アスレチックのような遊具があって、遊べる公園が近くにあればいいですね。私としては、子どもたちが運動能力をいっぱい付けて、菊川町出身の馬拉ソンランナー中本健太郎さんのような選手が、また菊川町から誕生してくれることを願っています。



カモンワーフボードウォークからの朝日



カラストでの豊田町「新米フェス」

私が言いたかったことを皆さんが話されたので、ちょっとまとめて、補足をします。

一つは、流動化の話。結局、人と人とのつながりなんです。人と人がつながって魅力的な資源の境目がなくなればいいですね。

もう一つは、働き方改革。主婦層を中心に2時間、3時間で手軽に仕事ができる働き方を認めてもらう雰囲気がいちいちほしいですね。それと、インターネット環境(在宅勤務)の充実ですね。

最後に私から具体的な提案を。春、下関駅前や目立つ所に横断幕を作してほしい。「大学入学おめでとう」という横断幕。私の体験ですが、都心の大学に進学して、駅に降りた時、入り口に「大学入学おめでとう」という大きな横断幕があって、すごくうれしかったんです。

まち全体で大学生を受け入れている雰囲気を感じ取れたんです。実際に、大学生が増えると経済効果もあるんです。でも下関には、それが無いと感じています。全部の大学名を書いて歓迎しましょう。

なぜかという、必要とされていると感じるところに人は集まるんです。何かしたい大学生はたくさんいます。大学生のアイデアを生かして、若い人たちと一緒に何か出来るといいですね。

未来の下関を描いて  
皆さんと共に

前田市長

今日、皆さんの話を伺って、子どもを育てやすい環境を作っていくことが必要だと改めて思いました。それと、吉田さんが言われた「未来と今と教育」も非常に重要だと思えます。

私は、まずウオーターフロント開発から取り組みを進め、誰もが「わがまち」に自信を持って、平等に癒され、楽しめるような「まち」をつくっていききたいと思っています。5年、10年で一定の成果を得て、でもそこで終わると下関の未来がない。20年、30年と前に向かうように長期的な構想を持ってやっていきたいと考えています。

子どもたちにも自信を持つてほしい。郷土への誇り、地域への愛着、家族愛、そういったものを育む教育をしていこうと思います。

今日は、そのヒントを皆さんにいただきました。下関の魅力をどれだけ磨いていけるか、これから「希望の街・下関」への、同じ将来のデザイン・姿を描いて、一緒にやっていきましょう。今後ともよろしくお願ひします。

本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。



「希望の街」 将来のデザインへ  
下関の魅力をみんなで磨きましょう！